令和２年度（第１回）北九州市子ども読書活動推進会議（書面開催）要旨

１　開催日　　令和２年５月
２　出席者（資料送付対象者）
　北九州市子ども読書活動推進会議委員　山元会長他１４名
３　協議事項
（１）「新・北九州市子ども読書プラン」の進捗状況について【資料１・２】
（２）子ども読書活動推進条例について【資料３】
（３）次期「子ども読書プラン」の取組み等について
（４）今後のスケジュール等について
４　委員の主な意見
（１）「新・北九州市子ども読書プラン」の進捗状況について【資料１・２】
・数値目標の達成状況などをみると、読書習慣の定着にまだまだ課題があると思う。
・「ワーク・ライフ・バランスの取組みと連携した家庭の読書活動の推進」という項目は、イメージがわきにくいので、現場の人が理解し、活動しやすい表現へ変更した方がよい。
・「電子書籍の普及動向・活用に関する調査・研究」は、子ども図書館だけでなく図書館全体の問題として取り組むべき。
・上学年（５・６年生）の児童が１・２年生の児童に対して読み聞かせを行うようなモデルを、読書プランの一つとして紹介する。
・本(現物)を触れられない子どもたちにとって、電子図書は有効なものとなり得る。
・保育所の立場から云えば、「早寝・早起き・朝ごはん・読書カード」の取組みは広がっている実感があるが、「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」の民間保育所への浸透を推進したい。
・ICT 教育に慣れていく一方で、本を読むことが少なくなるかもしれないので、読書の大切さを一斉読書を通して増やしていけたら良いと思う。
・(資料２)「各取組み内容」と（資料１）の KPI（重要業績評価指標 / キーパフォーマンスインディケーター / Key Performance Indicator/目標の達成度合いを計るために継続的に計測・監視される定量的な指標）との関連性を明確にすることで、振り返りが明確になり、次年度の各取組み内容の充実が更に図れる。
・絵本配布率は母子手帳配布の際に渡すようになり数字は上がっているが、その後の啓発促進の為、地域図書館でのおはなし会のチラシ（各団体独自のチラシもしくは地域図書館の当月の図書館だより）を手渡してはいかがか。
・家読チラシの作成・配布について、家読単独のチラシではなく、同時に子ども図書館のＰＲをするものであれば、より読書(本)をイメージでき、作成・配布の費用対効果と機会の効率化が期待できるのではないか。

（２）子ども読書活動推進条例について【資料３】

・「子ども読書活動推進条例」に基づいた各種の取組みで、子どもの読書活動の推進は図られていると感謝している。

・子ども、大人も「ノーテレビ・ノーゲーム・ノースマホ・読書の日」を多いに意識していかないと、大変な時代がすでにやってきている。

（３）次期「子ども読書プラン」の取組み等について

・読書郵便、ネット配信番組やデイジー図書など、子ども図書館の機能の充実を図るべき。

・読書活動の推進を行うためには、学校図書館で調べ学習の活動を支援する事業が必要。そのためには学習を支援する教員及び学校司書など体制の整備が必要。この体制が整えば、学力低下も改善され、自発的学習及び課題解決型学習へと子どもたちを導くことができると思う。

・読書の裾野を広げるためには、学校図書館のさらなる活用が必要。学校図書館職員（学校司書）と市立図書館の連携強化を図るべき。

・図書館の利用に障害のある人（外国人等を含む）に対するきめ細かい対応が、図書館に求められている。

・無関心層へのアプローチは永遠の課題。いろいろな取組みに柔軟に対応できる体制ができるとよい。

・「ノーテレビ・ノーゲーム・読書の日」については、学校現場であまり確認されなくなっている。再度盛り込むなら、啓発をして周知したほうがよい。

・「本」を介して学校の枠を外して、児童生徒の意見交流の場があるとよい。

・子ども図書館が主催する「北九州版ビブリオバトル」の実施があるとよい。

・「３５　電子書籍の普及動向・活用に関する調査・研究」調査研究から一歩踏み出し、「２０　誰もが利用しやすい市立図書館の環境づくり」へと関連付けても良いのではないか。

・「ほやほや赤ちゃん教室」で配布した絵本を読み聞かせる事業、ブックスタートプラスとかブックセカンドなど配布後の活用の方に取組みを変更してはいかがか。

・ＧＩＧＡスクール構想、家庭・地域へのウェブ配信強化など新しい生活への対応という新規の取組みが必要ではないか。

・オンライン授業などで本の紹介などの取組みがあればおもしろい。

・読み聞かせなど自宅にいても楽しめるオンライン配信等が今後必要ではないか。

・「一斉読書の時間の推進」を「担任教師による読み聞かせ」（耳から聞く読書）に変更してはどうか。

・学校で活動している読書ボランティアのネットワークを作り、取組み事例の共有などボランティアメンバーが自らスキルアップを図り、学習・研修する事業があるとよ

い。
・ひとり読みへの移行（児童書～YA 文学）が難しいのが現状である。
・同年代の友達が薦めてくれるものが一番だと思う。
・市民センターの「生き生き子ども講座」において、読書(本)をテーマとする講座の開催を加えてはどうか。
・「電子書籍の普及動向・活用に関する調査・研究等」を「障害者図書」に特化させる方法もある。

（４）今後のスケジュール等について（その他読書活動全般についての意見を含む）

・これからの活動として北九州市の子ども達が自分の図書カードを持てるよう子ども図書館の見学ができるとよい。
・子どもが受け身的な取組みになっている。子ども達自身が主役として参加し、考え実行し振り返る。そういう取組みに転換する時期に来ている。
・子ども図書館の魅力発信・ＰＲが急務である。
・GIGA スクール構想と並行し、今後、電子書籍の貸出し等も検討することはできないか。
・オンラインでの読み聞かせや、図書の郵送貸出しなどが行えないか。